

各ワーキング 令和5年度運営方針

I 福祉にフィットしない方たちの次の選択肢を考えるワーキング

1 目的

既存の福祉サービスに合わず行き場がなく安心できる居場所がない障害のある方を対象に、地域での支援の在り方や新たな地域資源について協議し、アイデアを創出する。

障害特性、当事者本人の意向、触法など様々な理由で就労継続支援B型など福祉的就労が合わず企業就労も難しいような、いわゆる狭間の障害当事者を対象に日中活動等の次の選択肢を検討する。

2 ワーキングにおいて取り組む主な内容について

様々な分野の先駆的活動者やワーキングメンバーから意見を集め、福祉に合わない障害当事者の現状と課題を確認する。昨年度ワーキングで新たな社会資源としてあがった「ソーシャルファーム」や「コミュニティカフェ」等をキーワードに調布における支援体制について精査していく。

3 ワーキンググループメンバー（敬称略）

座長 丸山 晃（立教大学 コミュニティ福祉研究所 研究員）
池田 怜生（社会福祉法人調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター）
佐藤 裕香（社会福祉法人調布市社会福祉協議会 こころの健康支援センター）
和泉 怜実（社会福祉法人調布市社会福祉協議会 子ども・若者総合支援事業ここあ）
矢辺 良子（調布狛江地区保護司会）
仁田 典子（特定非営利活動法人調布心身障害児・者親の会）
福田 信介（社会福祉法人調布市社会福祉事業団 調布市障害者地域生活・就労支援センターちょうふだぞう）

4 事務局

調布市障害者地域生活・就労支援センターちょうふだぞう
調布市障害福祉課

5 令和5年度のワーキングにおける成果目標

既存の福祉サービスに合わず行き場がなく安心できる居場所がない障害のある方が、様々な体験や自己理解ができる場や落ち着いて過ごすことができる居場所の創出、日中活動の新規の地域資源及び支援体制について具体的な提案をワーキング内で検討していく。

II 学齢期の福祉教育を考えるワーキング

1 目的

教育現場では以前より授業の中で福祉教育が実施されている。その方法はゲスト講師による講話や疑似体験など多種多様である。一方、調布市では今年度から「障害当事者講師養成研修」を開始し、障害当事者が自らの経験をもとに講師として、「地域で活躍する」ことが期待されている。そこで、こうした調布市の取組を含め地域の中で福祉教育を展開するために教育と福祉の連携について協議を行うこととなった。

2 ワーキングにおいて取り組む主な内容について

調布市内の教育機関に対して、福祉教育に関するアンケート調査を実施・分析を行う。その分析をもとに、教育機関が抱える課題や福祉教育に関する要望を把握し、福祉教育の実施方法や教育内容について検討する。

3 ワーキンググループメンバー(敬称略)

座長 谷内 孝行 (桜美林大学 健康福祉学群 准教授)
高江洲 幸男 (当事者)
佐々木 翼 (当事者)
樋川 宣登志 (調布市立第一小学校 校長)
坂口 昇平 (調布市教育委員会指導室 副主幹)
毛利 勝 (特定非営利活動法人調布心身障害児・者親の会)
田村 敦史 (社会福祉法人調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター)
前田 雄太 (社会福祉法人調布市社会福祉協議会ドルチェ)
吉野 強 (社会福祉法人調布市社会福祉事業団 調布市障害者地域生活・就労支援センターちょうふだぞう)

4 事務局

地域生活支援センター希望ヶ丘
調布市障害福祉課

5 令和5年度のワーキングにおける成果目標

調布市における福祉教育に関するアンケート調査を実施・分析することで、現状と課題を把握し、考察をまとめる。

Ⅲ 医療と福祉の相互理解についてのワーキング

1 目的

昨年度のワーキングにおいて、障害のある方の医療アクセスの現状と課題を明らかにするため、当事者及び家族に対してアンケートを実施した。また、医療側の現状と課題を把握するため、調布市医師会が医療機関向けにアンケートを実施した。

今年度のワーキングでは、二つのアンケート集計結果を踏まえ、病院での受診や在宅診療並びに健診時における双方の理解をより一層深めることで、障害のある方が安心して受診できるような環境づくりを目指していく。

2 ワーキングにおいて取り組む主な内容について

当事者・家族並びに医療従事者向けアンケート結果を踏まえて、当事者の受診について受け入れ促進要件や阻害要件を明らかにしていき、解決方法等について検討していく。

3 ワーキンググループメンバー（敬称略）

座長 山本 雅章（社会福祉法人調布市社会福祉事業団 業務執行理事）
西田 伸一（公益社団法人調布市医師会 会長）
伊藤 文子（一般社団法人子どもプライマリケアサポートかしの木 代表理事）
進藤 美左（特定非営利活動法人調布心身障害児・者親の会 会長）
富澤 敏幸（調布市身体障害者福祉協会 副会長）
愛沢 法子（調布市視覚障害者福祉協会 会長）
井村 茂樹（調布市聴覚障害者協会 会長）
江頭 由香（調布精神障害者家族会かささぎ会 会長）
秋元 妙美（C I Lちょうふ 代表）
栗城 耕平（地域生活支援センター希望ヶ丘 施設長）
円館 玲子（調布市障害者地域生活・就労支援センターちょうふだぞう 施設長）

4 事務局

相談支援事業所ドルチェ
調布市障害福祉課

5 令和5年度のワーキングにおける成果目標

- ・受診等に際し、障害当事者及び医療側の現状や課題を把握する。
- ・アンケート集計結果から相互理解をより深めるためには何が必要なのかを検討する。

IV サービスのあり方検討会

1 目的

市内の特定相談支援事業所の相談支援専門員は、権利擁護の視点を大切にし、個別支援の実践とともに社会環境の調整を行い、利用者の意思を決定するための支援をするとともにそのニーズをアセスメントし代弁する役割がある。

この連絡会は、相談支援専門員のケアマネジメント能力の向上と均質化、調布市におけるサービスの支給決定の考え方の共有、情報交換等を図り、ひとりひとりの尊厳のある暮らしが満たされる社会を構築することをめざし、よって障害者福祉の増進に資することを目的とする。

2 出席者（開設順）

調布市内の指定特定相談支援事業所（13事業所）の相談支援専門員

- (1) 銀河ケアサービス
- (2) 地域生活支援センター希望ヶ丘
- (3) 相談支援事業所ドルチェ
- (4) ちょうふだぞう
- (5) 調布市福祉健康部障害福祉課
- (6) 調布市子ども発達センター相談支援事業所
- (7) 障害者自立相談支援協会
- (8) 調布市こころの健康支援センター
- (9) プラントシード
- (10) 合同会社マーレ相談支援事務所
- (11) シエル相談支援センター
- (12) KIZUNA 相談支援センター調布
- (13) ポコポコ・ホッピング神代団地

3 実施計画

- ・今年度は、全6回を予定している。
- ・昨年度に引き続き、相談支援専門員と他職種との顔が見える連携を目指し、他職種も交えた事例検討や制度の学習を行う。
- ・第3回目と第6回目は、地域生活支援拠点連絡会を併せて開催し「地域体制強化共同支援加算」記録書の報告から、地域課題について共有を図る。